

「地域に笑顔と元気を届けます (Jコーラス部の取り組み)」

兵庫県立太子高等学校
教諭 澤田 紀世美

1 取組の内容・方法

(1) Jコーラス部のはじまり

平成 22 年に総合的な学習で EXILE のボイストレーニングをテーマに取り上げた 2 年次男子 3 名が、調べたトレーニングを実践するために音楽室に集まり歌い始めたことをきっかけに、歌の好きな生徒が徐々に集まり、平成 23 年に、同好会を発足させる。(部員 26 人・活動回数 のべ約 20 回)

発足させるにあたり名称を「Jコーラス部」とする。Jコーラス部の J とは Japanese Song (ジャンルを問わない日本のうた) と Joyful (喜びや楽しみ) を表す。歌の技術の向上を目指すことや成果の発表を活動の中心にするのではなく joyfol すなわち歌を通して楽しみや喜びを伝えることで、人と人とのつながりを大切に活動していこうという思いと、童謡から懐メロまで生活の中にある日本のうた (J-ポップ) を中心に歌っていこうという思いが J という文字に込められている。

(2) 活動について

① 活動概要

太子高校 Jコーラス部は、「歌を通して人と人とのつながり」をモットーに活動を行っている。自分たちの大好きな歌で地域に元気を届けようと、地域のイベントやセレモニー、商業施設や幼稚園・保育園、病院や高齢者施設、障害者施設等でのボランティア演奏や災害復興支援の募金活動、被災地活動など年間約 70 回の「歌のボランティア活動」を中心に活動している。自分たちの好きなこと得意なことを他者の幸せのために活かそうと考え、歌を中心にボランティアを行う活動は他に類を見ないと考える。活動が認められ、最近ではラジオや新聞等メディアで取り上げていただく機会が多くなっている。

主な受賞歴 (ボランティア活動関連)

第 14 回・第 17 回出る杭大会 出る杭大賞

第 15 回・第 16 回出る杭大会 西播磨ビジョン賞

平成 27 年度 西播磨青少年本部長賞

平成 28 年度 ひょうご県民ボランティア活動賞

平成 29 年度 ひょうごユニバーサル社会づくり推進会議審査員特別賞

平成 27 年度・平成 30 年度ひょうごユニバーサル社会づくり推進会議会長賞



出る杭大会



ひょうごユニバーサル社会づくり

② 活動内容の工夫

ステージ構成では事前の打ち合わせでリクエスト曲を聞いておき、懐メロや童謡などを組み合わせたミュージカル仕立てにし、自分たちが作成した大道具や小道具を用いて、参加者が見て参加して楽しむ構成を演出するなどの工夫を凝らしている。活動場所でそれぞれ対象となる人が違うので、それぞれの場にふさわしい選曲を考え、手遊びやゲーム、参加型の創作ミュージカルを取り入れるなど、様々な年代の方と心を通わせる交流ができるよう心掛けている。また対象となる人と一体感が生まれることにより自分たちも感動し、さらに心を伝えられるものにしようと工夫を重ねている。表現力を高めるため専門家の指導を受けるなど技術の向上にも力を入れ、コンテストなどでは必ず入賞する歌の実力も持ち合わせている。伴奏はピアノにこだわらず、電子ドラムやベースギターなども使用し、曲の特性を生かして自分たちでアレンジしている。歌謡力を備えた自由な表現が評価され、今年度はバークリー音楽大学の教授が来校してくださり、指導を受けることができた。また、たつの市の「第1回たつので生まれた童謡歌唱コンクール」では優良賞を受賞することができた。



バークリー音楽大学教授



たつので生まれた童謡歌唱コンクール

③ 活動場所（平成30年度）

〈高齢者施設〉・書写ひまわりホーム・フルーツガーデンさかい・まほろばの里 いなみの学園大学大学院

〈子ども施設〉・県立こどもの館・たつの子育てつどいの広場・勝原公民館
・太子町あそびっこ教室・安養保育園・龍野保育所・小宅保育所

〈障害者施設〉・書写ひまわりホーム・県立しらさぎ特別支援学校・県立西はりま特別支援学校・パレットたつの

〈地域行事〉・出る杭大会・おたいしマルシェ・糸井池田自治会夏祭り・姫路ぐるめらんど・太子夏会式・太子あすかふるさとまつり・立岡自治会・たつの花火大会・新宮花火大会・そごう神戸店・デュオドーム神戸・神出学園・赤とんぼ一番街・リバーシティー姫路・太子町マーケット・夢かなうた発表会・姫路花と緑のガーデンフェアイベント・姫路花と緑のガーデンフェア・第2回西播磨高校生マルシェ・太子町健やかフォーラム・兵庫県公立高等学校PTA連合会研究大会・御津人権教育講演会・たつの童謡歌唱コンクール・手柄山ライブ Call～誘い Vol.4・兵庫県進路選択機構教育フォーラム・谷本賢一郎南光小学校コンサート・青山かふえ・ひめじ緑いち

〈国際交流〉・韓国信一高等学校との交流・台湾台中市立豊原高級中學との交流



子育てひろば



高齢者施設



夏祭り



太子夏会式

<ボランティア活動>

地域でのボランティアコンサート以外にも、地域で育んだ力を被災地支援活動にも生かしている。歌だけではなく募金活動や被災地での仮設住宅訪問など、高校生の元気を多くに方々に届けている。異なる年代の方々や障害者、被災者と触れ合う活動を通して、お互いを理解し合い、お互いの良さを見直す機会となり、支え合いながら生きることの大切さを学んでいる。今年度はJコーラス部で2年続けて行った熊本被災地支援ボランティアの活動を学校全体としての取り組みに発展させた。まず、生徒会を通じて全校各クラスにメッセージやプレゼントの作成を呼び掛け、被災地での活動有志を募った。また同窓会やPTA、職員にも有志を呼び掛け、Jコーラス部45名、生徒有志20名、同窓会10名、PTA2名、教職員等7名総勢84名での被災地支援活動を行った。



募金活動



事前準備のプレゼント



熊本動植物園



テクノ仮設団地



木山仮設団地



ひろやす荘



熊本県庁

2 取組の成果

地域に高校生のパワーを届けることで地域の方々の元気づくりを担い、まちづくりや地域の活性化にも役立っている。高齢者の方が涙を流しながら「長生きしようと思った」、小さな子供さんから「おにいちゃんやおねえちゃんみたいになりたい」、保護者の方から「自分たちの学生時代を思い出した。自分の子供も充実した青春を送ってほしい」など、参加者とのふれあいや笑顔、お礼の言葉やお礼状などから自信をつけ、生徒一人一人が自己肯定感や自己有用感を高め、自覚と誇りを持って行動し太子高校生の模範として学校生活も送ることができている。生徒一人一人が興味関心のある得意な分野を生かして企画・運営、発表のすべてを行い作り上げる喜びを経験することにより、より一層自主性や思いやりの心を育むことができている。また、数多くのステージ活動を行うことにより、臨機応変に対応できる力も養っている。

3 課題及び今後の取り組みの方向

今後の課題として、この多くの経験を生徒自身が次の進路により活かせるよう、具体的なイメージを持てる工夫や仕掛けを充実させたい。心の教育だけでなく音楽的な力の向上もさらに追及し、表現の幅を広げられるように自分自身の研修やスキルアップにも努めていく必要性を感じている。教科の特性を学校の教育活動全般に活かせるよう、自身の柔軟な発想と心の充実にも心がけたい。また、引き続き生徒の指導に力を入れることはもちろん、クラブ活動における生徒の心の教育と地域に根差した教育の充実や発展の実践を若手教員をはじめとした全ての教員に伝えていきたい。

今後も地域に根差した活動を通して、「生徒の心豊かでたくましく生きる力」をはぐくむ教育を実践し、地域との連携を密にすることで、地域に信頼される開かれた学校づくりに貢献していきたいと考えている。